

令和7年度

「運営に関する計画」

【最終】

大阪市立城東小学校

令和8年3月

大阪府立 城東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

新しい大阪府教育振興基本計画の3年目は、校内アンケートで、肯定的に回答する保護者が昨年度よりも増加した。これは、「みんなちがってみんないい」のテーマのもと、一人一人の多様性を大切にされた学校運営が理解されたためと考える。また、児童が主体となる半日運動会改め城東スポーツフェスティバルや一人一台PCの積極的な活用、自主学習の推進、教科担任制や学年内教科入替制、標準服の自由選択制などにおける本校独自の取組や情報発信などが評価され、学校の思いや考えが理解された結果と考える。また、経年調査から、児童の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」で肯定的な回答は平均96.6%であるが最も肯定的な回答は平均84.4であった。今年度は重点的に取り組み90%以上としたい。不登校児童の在籍比率は0.80%→0.75%、完全不登校児童は0人と改善された。また、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っていますか」について概ねも昨年度より向上しているが一部の学年で若干下回っている。一方で、3～6年の教科の標準化得点が平均に届いていないという課題がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(80.3%)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を、令和3年度より10%増加させる。(90.8%)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。(86.8%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率35%以下の児童の割合を令和3年度より10ポイント減少させる。(国語32.6%→21.1% 算数25.6%→17.1%)
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を50%以上にする。(42.1%)
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より3ポイント向上させる。(男子-5.4% 女子-1.1%)
- 特に課題であるソフトボール投げの記録を令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、令和3年度より5ポイント増加させる。(男子+0.7 女子±0)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、20%以上にする。(57.9%)
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。(71.2%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。【R7 86.4%】

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【完全不登校児0名】

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【不登校児童1名】

学校園の年度目標

○小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を、各学年で令和6年度より向上させる。【R6 83.3%→R7 86.4%】

○小学校学力経年調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を各学年で令和6年度より向上させる。【R6 87.4%→R7 84.1%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を40%以上にする。【R7 40.2%】

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における「外国語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。【R7 71.7%】

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。【R7 73.7%】

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を満たす教員の割合を100%にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度は、学校運営の中期目標である「安全・安心な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」の実現に向け、全教職員が共通理解のもと組織的に教育活動を推進してきた。

「安全・安心な教育の推進」については、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答する児童の割合が86.4%となり、目標を達成した。また、いじめ重大事案は発生せず、不登校児童への継続的な支援や関係機関との連携を図ることにより、完全不登校児0名という状況を維持することができた。さらに、「自分にはよいところがある」と回答する児童の割合も向上しており、児童の自己肯定感・自己有用感を高める取組が一定の成果を上げていると考えられる。一方で、「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童の割合については前年度を下回る結果となり、キャリア教育のさらなる充実が課題として挙げられる。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」については、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や自主学習の推進により、学級での話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができていると回答する児童の割合が40.2%となり、目標を達成した。また、自主学習交流会の実施など、児童が主体的に学び合う取組の充実が見られた。一方で、外国語学習や運動に対する肯定的回答の割合は目標値を下回っており、授業改善や指導体制の工夫を通して、児童の興味・関心や意欲を高めていくことが今後の課題である。

「学びを支える教育環境の充実」については、一人1台端末の活用が日常的に行われ、学習者用端末を活用した授業の実施率は高い水準を維持することができた。また、チーム担任制や教科担任制、学年内教科入替制の導入、学校行事の精選、会議の見直し等を進めることにより、教職員の働き方改革の推進にも一定の成果が見られた。

以上のことから、本年度の取組は概ね中期目標に沿って推進され、一定の成果を上げることができたと考える。今後は、本年度の成果と課題を踏まえ、児童の将来への展望を育むキャリア教育の充実、外国語学習や運動への意欲を高める指導の工夫等を図りながら、児童一人一人が安心して学び、主体的に成長できる学校づくりを一層推進していく。

(様式2)

大阪市立 城東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <p>○小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。【R7 86.4%】</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (完全不登校児0名)</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (完全不登校児0名)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を、各学年で令和6年度より向上させる。【R6 83.3%→R7 86.4%】</p> <p>○小学校学力経年調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を各学年で令和6年度より向上させる。【R6 89.9%→R7 84.1%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校安心ルール」の徹底を図り、適切な個別指導や対応を行い、いじめ・問題行動に組織的に適切に対応する。不登校や児童虐待に関する状況を適切に把握し、首席を窓口として組織的に対応する。</p> <p>指標 担当部長を中心として、「いじめ・不登校・虐待」に対して組織的に個別指導ができる環境を整える。(スクリーニングシート・月1回の対策会議・SCとの月2回の情報共有)</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>児童の自己肯定感・自己有用感の向上を図るため、教職員の人権研修会の実施。</p> <p>指標 人権教育部を中心として、自己肯定感・自己有用感の向上を図るための取り組みを年間通して実施し、小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合を、各学年で令和6年度より向上させる。 【3年 85.8% 4年 78.4%→81.4% 5年 88.9%→87.5% 6年 82.5%→87.5%】</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>キャリア教育の体系的・系統的な推進を図る。(キャリアパスポートの適切な活用)</p> <p>指標 キャリアパスポートを効果的に活用し、小学校学力経年調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に対して肯定的に答える児童の割合を、各学年で令和6年度より向上させる。 【3年 87.5% 4年 90.0%→88.0% 5年 87.1%→80.4% 6年 85.1%→80.5%】</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 「いじめ・不登校・虐待」の早期発見・早期対応に心がけてきた。いじめ重大事案0件 完全不登校児1名 虐待の疑い事案2件(関係各所との連携済み)となり、改善傾向である。不登校傾向のA児は、学級で給食を食べたり、授業を受けたりすることが増え、週に2日は必ず登校するようになった。</p>	

- ② 「幸せのバケツ」の取組みを継続 投稿数の増加がみられる。3学期になってからは、ほとんどの児童が投稿する学年もあり、全体で200件を超える月もあった。内容も自分がもらった幸せだけでなく、ほかの人がやさしく接している場面を見て、幸せだったと人の幸福を自分事に感じられるものも増えてきた。今年度初めて「世界について考える日」を設定し、取り組んだ。
- ③ キャリアパスポートの活用は積極的に行った。また、キャリア教育もゲストティーチャーを招いて様々なキャリアがあることを伝えた。

次年度への改善点

- いじめに対する認識は昨年度よりさらに向上した。学校生活の中で、小さなトラブルは起こるが、どの教職員も丁寧に対応してきた。その結果、大きないじめ事案は起こらず、不登校の原因がいじめや友人間のトラブルという児童はいない。
- 「いじめといのちについて考える日」を継続して設定し、学期に1度は取り組んでいきたい。「世界について考える日」を今年度設定し、取り組んだ。この取組みを人権教育の中に位置づけ、継続していく。さらに自己肯定感、自己有用感を高め、自分も他の人も大切にできる子どもを育てていきたい。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的な回答が昨年度より減っているので、次年度は成長すること、大人になることへのワクワク感をもっと感じさせる学級運営、学校運営を心掛けたい。

大阪市長 城東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小学校) ○小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を40%以上にする。【R7 40.2%】 ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「外国語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。【R7 71.1%】 ○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。【R7 73.7%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的・対話的で深い学び」の推進を図る。学力向上支援チームの訪問による指導・支援により個別最適な学びによる自ら学習を調整できる能力の育成と協働的な学びによる集団で学ぶことの良さを実感させる。(自主学習(「けテぶれ」学習)の推進) 指標 小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を40%以上にする。【R7 40.2%】 小学校学力経年調査の「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習していますか」に対して、肯定的な回答をする割合を各学年で令和6年度より向上させる。 【3年 57.8% 4年 60.0%→72.8% 5年 44.4%→57.2% 6年 58.1%→72.8%】	A
取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 外国語指導における習熟度別学習の積極的な導入、オールイングリッシュの授業の実施により児童の表現力の向上を図る。そのために、英語指導における教員の指導力・英語力の向上に向けた研修を実施する。 指標 小学校学力経年調査における「外国語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。【R7 71.1%】	B
取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】 令和6年度全国体力・運動能力調査において課題となった跳躍力(立ち幅跳び)走る力(50m走)の育成を図る(年間を通した取り組みを実施) 児童の体力・運動能力向上にむけた研修会の実施。 指標 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%にする。【R7 73.7%】	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 自主学習交流会の実施(高学年から他学年への自主学習の取り組み方の伝授) 6年生から自主学習の進め方について教えたり、異学年(たてわり班)でそれぞれの自主学習の内容を見せ合ったりすることで自主学習に積極的に取り組む児童が増えた。正門前に月ごとで自主学習を掲示することで児童同士が共有する機会となった。教員だけ	

が教えるのではなく、児童が教えることでより身近になった。

② C-NETの有効活用 各担任による積極的なイングリッシュ授業の実施
教育委員会との連携

C-NETの楽しい授業を取り入れながら、授業を進めることができた。今年度は習熟度別の指導が人的不足のためにできなかった。「外国語の勉強は好きですか」の肯定的な回答率の低下につながったと考える。

③ 体育授業における運動量の確保 リズム体操の継続的な取り組み

1年間を通じて体育授業の展開を考え、運動量の確保を大切にした。またリズム体操の継続的に取り組んだ。3学期にはrun run大作戦、pyon run大作戦として全校で5分間走・10分間走、縄跳び運動を実施した。

次年度への改善点

○自主学習への教員の認識をさらに高いものにし、児童が興味をもって自ら学ぶ姿勢となるよう指導していく。

○英語に親しむ態度を大切に授業を展開してきたが、今年度は「外国語の授業が好きだ」と答える児童の回答率が80%を下回ってしまった。専科教員とC-NETがしっかりと打ち合わせができていた時と比べて、今年度は十分ではないと感じた。次年度は、C-NETと教員の打ち合わせを十分に行って、児童が楽しく外国語を学ぶことができるように改善していく。

○リズム体操、run run大作戦、pyon run大作戦は、恒例の取り組みとなってきた。次年度は、児童が昨年度の自分と比較し、成長していくためにはどうするのかを考えさせたい。

大阪市長 城東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小学校) 【ICTの活用に関する目標を設定する】 ○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。【R7 平均93%】 【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】 ○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1(基準2)を満たす教員の割合を100%にする。【R7 100%】	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6、ICTを活用した教育の推進】 一人1台端末の効果的な活用を図る。 ・教員の活用スキルの向上(仕事の効率化) ・児童の活用スキルの向上(ソフトの活用能力・多様性に対応) 指標 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。【毎月90%以上 100%の月が2回】	B
取組内容②【基本的な方向6、ICTを活用した教育の推進】 授業にデジタル教材を活用した自主学習に取り組むことにより習慣化を図る 指標 小学校学力経年調査における「デジタルドリルを使った学習は楽しいですか」に対して肯定的な回答の割合を全学年で令和6年度より向上させる。 【3年 85.7% 4年81.7%→74.6% 5年85.1%→71.5% 6年 71.6%→85.8%】	B
取組内容③【基本的な方向6、働き方改革の推進】 チーム担任制、教科専科制、学年内教科入替制の積極的な導入と活用、学校行事の精選、会議の削減、ゆとりの日の設定、長期休業期間における学校閉庁日の設定により教員の長時間勤務の解消を図る。 指標 「学校における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1(基準2)を満たす教員の割合を100%にする。【R7 100%】	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 活用率は、平均90%以上 ② 家庭学習でのデジタルドリルの活用 授業内でのICT機器の活用 ③ 100%維持	
次年度への改善点	
○次年度は、今年度を維持しながら、先進的な取り組みを進める。	